

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270400920		
法人名	株式会社メディウェル		
事業所名	グループホームみつわ台桜レジデンス		
所在地	千葉県若葉区みつわ台1-1-4		
自己評価作成日	2020年11月30日	評価結果市町村受理日	2021年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-4-17
訪問調査日	書面評価(令和2年12月)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療面には、特に力を入れています。ご利用者の日々の変化に気を配り、医師と看護師との綿密な連携を図っています。  
食事は管理栄養士が立てた献立を基にバランスの良い家庭料理を提供しています。食事の準備や洗濯物干し・たたみ・お掃除などの簡単な家事をはじめ、個々に応じた力を発揮出来るよう趣味を活かした活動を通して、張りのある生活が送れるよう援助させて頂いております。  
自立支援の視点から、ご利用者の出来る事、できないことを把握し、その方が必要とされていることを感じて頂き安楽で幸せな生活が送れるように努力しています。

新型コロナ感染予防対策としてホームで定めた遵守事項10項目に則って支援に努めている。毎回の運営推進会議は、ヒヤリハットや事故報告に加え、遵守報告と対策を話し合っている。コロナ禍での外出支援として日常的にホーム周りを散歩し気分転換と外気浴を行い、ホーム内では廊下歩行を習慣化し筋力維持につなげている。家族との面会を制限しているため、利用者の体調変化や薬の変更などを随時、電話で伝え、手書きの便りでも状況を細かく知らせている。面会できない家族へは利用者の日常をビジュアルに伝えて安心してもらうために動画配信を検討するなどコロナ禍の中で、いろいろと工夫をした支援に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		事業者様で記入 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない(コロナの為)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様記入 自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>			事業所様ご記入欄		
1	(1)	○理念の共有と実践 株式会社メディウェル	理念をフローに掲示し、内容を理解した上で、意識化し、認知症ケアを共有・実践していける様日々の支援に取り組んでいる	基本理念は「健康で幸福な楽しい生活のサポート」など5項目。朝の申し送り時や業務ミーティング時などで定期的に唱和する機会を設け、理念の一層の共有と実践を進めている。	新型コロナ禍のために、文書(書面)評価とした。事業所より提出いただいた①自己評価②追加提出資料③家族アンケート結果④運営推進会議議事録⑤家族への手紙⑥年間行事予定表⑦研修スケジュール表⑧個別質問と回答を参考とした。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ禍で参加出来ないが地域の行事に参加したり、自治会の清掃に利用者と職員が参加し、近隣の方々に、積極的に挨拶言葉掛けをしている	自治会に参加している。コロナが去った後は再び自治会の清掃に参加したり、ボランティアとの交流を再開する計画である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はコロナ禍で自治会活動も中止が多くなっているが、ホームの前の歩道の落ち葉掃きなどしていると、近くの方など声を掛けて下さり会話されたりしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は書面開催となっているが、利用者様ご家族に電話をしたり、ホームの月報にお手紙を同封したりして、意見や改善点を聞いている	運営推進会議はコロナのためホーム関係者(施設長及びスタッフ)のみでの書面開催としている。会議では、コロナへの取り組み状況10項目を検討し、感染防止に努めている。	運営推進会議議事録には、ホームの出席者名および、議事録の送付先名を追記願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在運営推進会議は書面開催の為電話等で事業者の実情やサービスの取り組みを伝えている。生活保護利用者7名在籍されており、区の担当者、後見人とは連絡を密にしている	市の窓口は介護保険事業課。また、地域包括支援センターへはコロナ感染防止の為の遵守状況など運営推進会議の結果を毎回ファックスで報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、またホームでもミーティングをし、身体拘束となる具体的な行為や弊害について理解している。基本的な生活を守るケアに努め利用者の状況を適切に把握しケアの工夫を行い身体拘束ゼロに取り組んでいる	身体拘束のゼロに向けた研修や話し合いを実施しているが、現在、対象者は1名いる。拘束が必要となった場合には、事前と事後には家族へ報告し、了解を得ている。適正化委員会は独自に開催し、状況を報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をしないケアの理解を深め、虐待が見逃される事が無い様、報告書等を利用し、毎朝の申し送り時に虐待について発表し虐待防止に努めている		

8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中には後見人制度を利用されている方がいらっしゃいます。研修の機会を持ち、日常生活自立支援事業、成年後見人制度について学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、重度化、改定等には、利用者ご家族の権利や義務を分かりやすく説明し、質問に応じ、十分に理解・納得して頂ける様に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会及び、電話連絡時に報告に加え意見や要望を尋ね運営に反映させている。利用者には、日々の会話の中で意見や要望を聞き、運営や支援に反映させている。	家族の意見は電話、手紙、メールなどで聞いている。普段は、栄養・バランス・塩分などに留意した食事としている。家族・利用者の要望もあり、誕生会やイベント時には本人の好物をメニューに取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内は日常的に発言しやすい環境にあり主に申し送り時間を利用して、意見や提案を出し合い、運営に反映させている	有給休暇について職員意見があり、有給休暇の残日数を職員自身で把握し、計画的に取得できるようにした。其のことが職員のリフレッシュに繋がり、ゆとりを持った気持ちで支援に当たっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績や資格取得により昇給の仕組みがある。希望に沿った勤務が出来る様、配慮されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内年間研修計画は各自が研修したい内容を出し合い決めている。施設外研修は、その職員が必要とする研修を受けられる様また、平等に研修に参加出来る様配慮し職員の知識、技術の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会に所属しており、勉強会、研修会などで意見交換をしている。定期的に開催される区サービス事業者研修に参加を促している		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談、見学時(現在は中止)にご本人の不安、要望等を傾聴し、誠実に丁寧に対応説明し信頼して頂ける様努めている。利用前であっても、いつでも相談に応じられることを伝えている
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談や見学時に困っている事や不安な事を伺い、思いを受け止め丁寧に説明している。利用前でも相談に応じられる事、空床があれば体験入居が出来る事も伝えている
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付時、生活面や健康面、経済面等の状況を把握し本人に適したサービス利用が出来る様に地域包括支援センターとも連絡を取り対応している
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に食事の準備や洗濯物干し、たみをしたたり、利用者の得意な事を活かしながら共に暮らしに寄り添う関係を大切にしている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月手紙にて近況報告をし、心身の健康状態や生活の様子を把握してもらっている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で思う様に面会が出来ず買い物や地域交流の場にご家族の協力が得られない状況にある コロナ禍で友人等の面会は無く、家族の面会も原則禁止にしているが、緊急の場合は玄関ホールで1~2mの距離を保ち実施している。毎日顔を合わせている職員・利用者同士が馴染みの関係になっている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いの性格等を把握し、気の合う同志が交流を楽しめる様また、トラブルが無い様工夫している

22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何時でも相談や支援が出来る状況をご家族に伝えるなどしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望を伺ったり日頃の会話でそれらを引きだせる様に心掛けている。困難な場合言動などで読み取り職員間で検討している	利用者本人との会話をこまめに行ったり、家族の希望等を聞きだし、意向の把握に努めている。また職員にはコミュニケーション能力を高めさせ、利用者の思いをくみ上げる様に指導している。意向の確認が困難な場合は表情や仕草等から推察し職員間で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣など十分にアセスメントを行いご家族から本人やご家族とのコミュニケーションを取る中で情報収集し把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況を記録し、申し送る事で変化などを職員間で情報を共有し、現状把握に努めている。毎日のバイタル、食事量、排尿チェックなどで健康状態を把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングや日々の申し送りで話し合い、介護計画の評価見直しを行っている。職員間で話し合いご家族にはその都度意見を求め介護計画を作成している	本人・家族の意向を基に、医師の意見及びケアカンファレンスで職員間で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3か月毎、及び状態変化時は都度実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿ったケアの実践状況経過、日々の様子から気付いた事は記録、情報共有し実践に活かしている。介護計画にも記録し評価見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍でスムーズな対応が中々出来ないが、その時の状況に応じ買い物や衣類等の補充、通院、緊急時の支援が出来る様に柔軟な対応を務めている		

29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で運営推進会議が行えず地域に見守られ安全で豊かな生活を楽しめる様な支援が出来ていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には経過や生活の様子等の情報を提供し、医師からは観察事項や生活上の注意事項の指示を受け利用者が適切な医療を受けられ、健康管理で異常の早期発見が出来る様、看護師に報告し医師との連携に努めている	訪問医師とホームの看護師2名が綿密に連携をとって利用者支援に取り組んでいる。受診時には経過等の情報を提供し、医師から観察事項や注意事項の指示を受けて、早期発見に繋げている。家族アンケートでは高い評価を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と医療連携体制を取り日常の様子、変化等を報告しながら気に掛かる事は随時相談し必要時に迅速、適切な対応が出来る様24時間相談体制が取られている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応、医師からの説明と一緒に聞いたり支援方法などの情報提供をしている。コロナ禍で入院中の見舞いは出来ないがソーシャルワーカーとの連携を計り早期退院と帰所後の適切なケアに努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のアセスメントの際にはターミナルの意向確認を行っている。ホームで出来る事出来ない事についても十分に説明し納得頂ける様努めている	重度化した場合、医療処置が不要の場合はホームで支援できること、医療処置が必要な場合は病院に移って頂くことを入居時に説明し意向確認をしている。終末期には医師の指示のもと看護師・職員等がチームケアで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	業務ミーティングでの勉強会を重ねている。緊急時マニュアル、事故防止及び、対策マニュアルを作成し、熟知徹底すると共に研修いつでも対応出来る様にしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応マニュアル、救急搬送手順、連絡方法を整備、市主催の救命救急を積極的に受講、災害時に迅速適切な行動が取れる様、利用者と共に防災避難訓練を実施している	緊急時のマニュアル・手順などを整備している。利用者也参加する消防署立会訓練と自主避難訓練を実施した。食料等3日分の備蓄がある。また市主催の救命救急訓練を受講し救命方法を学んでいる。	

**IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援**

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の権利、人権を常に意識して適切な言葉遣いと対応に努めている	さん付けで声掛けし、丁寧で分かり易い言葉でコミュニケーションに努めている。排泄や入浴時には羞恥心やプライバシーに配慮し、他の利用者には目立たないように声掛けや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者が思いを表現出来る自己決定が出来る環境作りや言葉掛けを行っている。表現が困難な方には言動や行動からニーズを読み取り代弁するよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の趣味や生活のペースを把握理解して、楽しみを持ち居心地良く生活出来る様に支援している。活動や行事への参加は個人の意思を尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	こだわりや好み、これまでの習慣を尊重しながら清潔を心がけ、季節や場所に応じた衣類等のアドバイスをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好に合った料理や季節感のある食事が提供出来るように努めている。一人一人の力に応じた役割を持ち共に食事の準備や片付けをし食事を楽しんでいる	下拵えや片付け等、職員の口添えのもと半数の方が一緒に行えている。赤飯・お祭りメニュー等の行事食も多彩で食べる楽しみを支援している。また刻み食やミキサー食等、嚥下状態に合わせた食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てたバランスの良い献立を基に個々の状態に応じて形態や量を変え楽しく安全に食事が出来る様に支援している。食事や水分摂取量をその都度把握して健康管理に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の状態に応じた援助で起床と毎食後の計4回の口腔ケアを行っている。ご自分で出来ない方には援助にて肺炎予防に努めている。訪問歯科の来訪もある		

43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し排泄の失敗が無い様に声掛けや誘導を行いプライバシーを損ね無い様に気をつけている	利用者毎の排泄パターンを把握し、声掛けや誘導によりトイレでの排泄が行えるよう支援している。プライバシーに配慮した声掛けで、トイレをうながし、失禁気味の方にはパッドの減りにも留意し、こまめに支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックで状況を把握し看護師、医師と連携を取り個々に合った排便コントロールを行っている。繊維質が多い食材をおやつにしたり水分を十分取る事を心がけ便秘の予防につなげている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1～2日おきに行っており湯の温度や入浴にかかる時間を一人一人の好みに合わせ、その日に入浴をしないや順番等の希望に添える様にしている	個々の好みに合わせた湯温や順番等の配慮のもと、1～2日おきに入浴支援をしている。状況等によってはシャワー浴で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその時の状況に応じ居室やソファ等でくつろいで休息を取れる環境を作っている。日中に活動の場を多く提供し夜間安眠の生活リズムが整うよう支援している。室温や湿度も季節に応じて調整している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師と対応し服薬管理は特段の注意を払っており、利用者別の薬ケースで管理し、用法、用量を記載し誤薬防止のため、顔写真を貼り管理している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力に応じた役割を家事や活動の場で持って頂き趣味を続ける事で楽しみを持てる支援をしている。散歩や買い物での気分転換はコロナ禍にて中止している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	社会の変化の様子を見ながら外出支援を行っていく予定	家族からはもっと外出を増やして欲しいとの声もあるがコロナ禍の現状では外出も最小限にせざるを得ない状況である。ホーム周りの散歩で気分転換と外気浴を図り、また廊下歩行を習慣化するなどして筋力維持に繋げている。	

50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いは基本的にホームの管理となっているが、細かな買い物は利用者の力に応じ支払えるよう援助している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に沿い日常的な会話を電話でしたり、賀状を書く援助をしたり、援助する事で利用者の交流関係が継続出来る様支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は常に職員を確認でき、安心できる間取りになっている。季節感のある装飾や花で生活の彩りを備えながら温かな家庭的な雰囲気の中で過ごして頂ける様努めている	居間には、季節の花や掲示物等が飾られている。コロナ禍対応で1時間に2回程度は窓を開け通風・換気に努めている。また手がよく触れる箇所やトイレ・床の消毒をこまめに行い感染予防に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の落ち着く場所でテレビを観たり、編み物、ぬり絵、本を読む事など又、気の合う同志で談笑しくつろいで過ごされている。状況に応じ座る場所へ誘導し孤立しない様に気配りしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時利用者、ご家族と相談し、馴染みや思い入れのある家具や物を置き、その人らしく安心して落ち着いて過ごせる居室作りをしている。入居後も相談しながら、その時の生活に応じた居室になるよう工夫している	入居前から使用していた馴染みの家具等を持ち込み好みに配置するなど、利用者が安心できる居室作りをしている。職員と一緒に掃除をする利用者もいる。また放尿対策・転倒防止等のために居室にセンサーを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を把握し補助具の使用や理解しやすい様に張り紙を利用するなど環境整備にも気を付けながら出来る限り自立した生活が安全に送れる様に工夫している		